

中央植物園だより



ミズバショウ
Lysichiton camtschatcense
(L.) Schott
冷涼な地方の水湿地に生え、本州では日本海側に多いサトイモ科の多年草。雪解け後に清楚な白い「花」をつけ、標高の高いところでは初夏に花を見る。花びらのように見えるのは仏炎苞(ぶつえんほう)で、一つ一つの花は小さく、棒状の肉穂花序(にくすいかじょ)につく。
撮影：中尾靖嗣さん(平成14年度私の植物写真展応募作品)

夏のイベントから 特別展「植物と紋章展」

フォーラム「よみがえる幻の園芸植物センノウ」

活動報告.....無料開園「ソメイヨシノと夜桜観賞」ほか

話題の植物.....マンゴーが実る・キスゲの仲間

研究紹介.....顕微鏡で覗くきのこの世界

雲南省の植物と文化...その5 高山植物の宝庫 香格里拉(下)



ドリラス

特別展「植物と紋章展」

7月25日(金)～8月20日(水) 富山県中央植物園 サンライトホール

日本の紋章は数千種類に及ぶといわれていますが、その多くが植物をモチーフにしています。この展示では、「桐」「葵」「片喰」など日本の伝統的な植物紋と、そのもとになった植物を紹介します。植物と紋章を対比することで、洗練されたデザインの美しさをお楽しみください。

このほか、故 里見信生氏（元金沢大学理学部教授）による高等学校の帽章コレクションの展示もあります。植物学者だった里見氏は多趣味であったことで知られ、中でも全国の新・旧高校の帽章1300点あまりのコレクションはユニークなものです。昭和63年には帽章や帽子、制服などを展示した「学生風俗資料館」を自宅の敷地内に建てられました。今回は植物がデザインされた帽章を中心に借りて展示しますが、地域に特有な植物を図案化したものもみられ、興味深いものです。高校生の制帽離れが進んだ今となっては貴重なコレクションを、ぜひご覧ください。



ポタン



抱き牡丹



キリ



五三桐



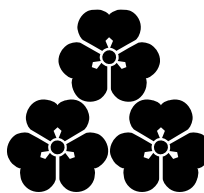
カキツバタ



花杜若



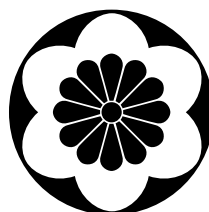
カタバミ



三つ盛り片喰



テッセン



永井鉄線



故 里見信生氏による帽章コレクション

第11回TOYAMA植物フォーラム「よみがえる幻の園芸植物センノウ」
8月3日(日) 13:00~16:00 高志会館(富山駅から徒歩7分)

センノウ *Lychnis senno* Siebold et Zucc.は中国原産のナデシコ科の多年草で、南北朝時代から園芸植物として珍重されてきました。しかし、現在では国内ではほとんど見るができなくなった貴重な植物です。近年、このセンノウが西日本の一部で栽培されていることが確認され、注目を集めています。このフォーラムでは、植物学ならびに文化史的な側面から「幻の園芸植物」センノウの謎に迫ります。バイオテクノロジーを使った保存と品種改良の取り組みについても紹介します。

「センノウはどんな植物か」

村田 源(元京都大学講師)

「室町文化と仙翁花」

芳沢勝弘(花園大学教授)

「センノウに関する最近の研究」

神戸敏成(富山県中央植物園主任研究員)



西日本の一部で保存されていたセンノウ。3倍体で種子ができないため、富山県中央植物園では試験管内での増殖・保存を試みている



江戸時代にシーボルトが描かせたセンノウの植物画。シーボルト旧蔵「日本植物図譜」コレクション(丸善株式会社刊)より

化石公開記念講演会「恐竜はどんな植物を見ていたか」
8月24日(日) 13:00~15:00 富山県中央植物園 研修室



瀋陽市植物園から寄贈された化石

中国遼寧省にある瀋陽市植物園から、約1億5千万年前(中生代白亜紀)の木の化石が寄贈されました。贈られたのはゼノキシロン *Xenoxylon* という植物の材の硅化石2個で、重さはあわせて1トン以上もあります。

化石の公開を記念して、寺田和雄氏(福井県立恐竜博物館研究員)による講演会が開かれます。恐竜が歩きまわっていた時代、地球上にはどんな植物が生えていたのか、興味深いお話が聞けそうです。

無料開園 ソメイヨシノと夜桜観賞

中央植物園は毎年、ソメイヨシノの満開にあわせ夜間開園を実施していますが、今年は4月10日(木)と11日(金)に行われました。今回から夜桜観賞の日は日中も含めて無料となったため、平日にもかかわらず2日間で1万7千人あまりの入園者があり、たいへん盛況でした。



特別展 野生ラン展

恒例の野生ラン展が、富山県蘭協会との共催で5月3日(土)~5日(月)に開催されました。エビネや外国産の野生ランなど300鉢が展示され、蘭協会長賞には平田良雄さんのバンダラム・パピリオナンセ、中央植物園長賞には松井龍山さんのコウズエビネ「日光」が選ばれました。



5月4日(日)には関連行事として講演会が開催され、蘭ミュージアム高森・副園長の青山幹男さんが、「シンビジウムとその仲間」と題して講演しました。

蘭協会長賞に選ばれたバンダラム



青山幹男さんによる講演会

昆明植物研究所との共同研究

富山県中央植物園は中国雲南省の昆明植物研究所と友好提携を結び、共同研究を進めています。研究交流のため、今年の3月から国際協力事業団の研修生として中央植物園を訪れていた王 仲朗さん(昆明植物研究所植物園・副研究員)がこのほど帰国することになり、6月9日に研究発表会が開かれました。西表島と石垣島でのペゴニア調査の様子や、蛍光染色によるアヤマ属の染色体の観察など、3ヶ月間の研究成果が紹介されました。王さんは「最後は時間が足りなくなりましたが、昆明に帰ってからもこの研究を続けていきたい」と話していました。



3ヶ月間の研究成果を発表する王仲朗さん

スタンプラリーを開催しています

「富山県植物公園ネットワーク」のスタンプラリーが、昨年に続き今年も行われています。富山県中央植物園、氷見市海浜植物園、福野町園芸植物園、花総合センター、頼成の森水生植物園、林業試験場樹木園、立山グリーンパーク吉峰山野草園の7ヶ所のうち、4ヶ所以上の植物園を利用し、所定の応募用紙にスタンプを集めると素敵な記念品がもらえます。応募用紙は各植物園で配布しており、記念品の交換は富山県中央植物園と氷見市海浜植物園で行っています。4月から2ヶ月間で、約60名の方が完了されました。12月27日まで開催していますので、ぜひご参加ください。



応募用紙は各植物園で配布

マンゴーが実る

マンゴー *Mangifera indica* L.はインド原産の樹木で、花は茎の先に房状に1000個近く咲きます。しかし、結実するのはそのうち数個で、結実率が極端に低い果樹といえます。これまで、「熱帯果樹室」のマンゴーは、開花はするものの結実しませんでした。そこで、花序（花の集まり）に植物生長調整物質を散布したところ、ほとんどの花序に数個の果実が結実しました。

マンゴーはバナナやパイナップルとともに日本人の味覚にあうトロピカルフルーツで、生食以外にジュース、ゼリー、アイスクリームなど加工食品の材料としても利用されています。熱帯果樹室のマンゴーはアメリカのフロリダで創られ、赤紫色に熟する‘アーウィン’という品種です。日本では鹿児島県、沖縄県で生産されています。（主任 兼本 正）



「熱帯果樹室」ではじめて実ったマンゴー

キスゲの仲間

立山や白木峰のやや湿った草原の夏の花ニッコウキスゲ（ゼンテイカ）は、ユリ科キスゲ属 *Hemerocallis* の植物です。属名の「ヘメロカリス」は「1日美しい」という意味で、この仲間の植物は花が半日か1日しか咲いていないことから付けられたようです。

この時期の山地や海岸の草原にはキスゲ *H. thunbergii* Baker（別名ユウスゲ）の花がみられ、名前のとおり夕方から開花し、翌日の昼頃まで咲いています。中国湖南省ではこの仲間の花を「金針菜」という名前で食用にしているそうです。

中央植物園の屋外展示園では、7月からキスゲが咲き始め、ハマカンゾウやノカンゾウ、ヤブカンゾウが続いて開花します。（主任研究員 山下寿之）



「山地草原」エリアのキスゲ。
花は夕刻に咲き、翌日の午前中にしぼむ

顕微鏡で覗くきのこの世界

主任 橋屋 誠

きのこはどんなに大きく見えても、微生物であるカビの仲間ですから、目視によって傘やひだ・柄などの形や色を観察するだけでなく、顕微鏡を使った微細な部分の観察が欠かせません。顕微鏡を使ってきのこの体を詳しく見てみると、肉眼での観察では思いもつかない不思議な世界が広がります。

特に、高等植物の種子に相当する胞子は、1/100mm程度の大きさですが、このサイズをはじめ、その形は、まん丸のものや、たまご型、ラグビーボール型、テトラポッド型、など実にさまざまです。加えてこの表面に見られる模様が面白いのです。私はペニタケ科のチチタケ属のきのこを対象にして研究をしていますが、この仲間の胞子には、小さな針状の突起が表面一面にあるものから、突起が繋がって網目になっているもの、ついには突起が発達して翼のように張り出して見えるものまであって、これらの特徴が分類の大きな決め手になります。この表面模様は自然の創り出したものなので、種内での傾向は同じものの、詳しく比較して見ると1個1個が微妙に異なっていて、いくら顕微鏡を覗いていても見飽きることがありません。

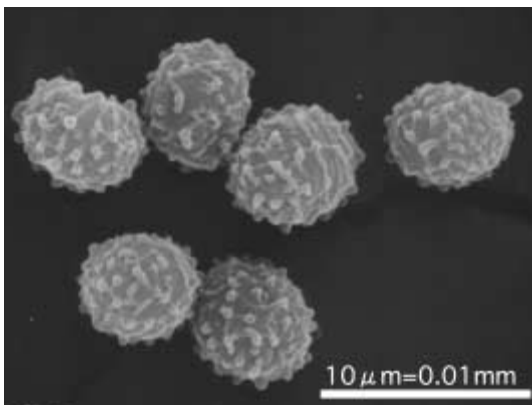


図1．走査型電子顕微鏡で観察したツギハギハツ *Russula eburneoareolata* Hongo (ペニタケ科) の胞子

また、ひだの縁部や側面、柄や傘の表面にまで菌糸が突き出したシスチジアと呼ばれる構造物があり、この先端の形が分類群によって特徴のあるものが多く、時に先端には結晶物が着いているなど、これらの特徴は分類の大きな手助けになります。

最近では全国的に、きのこの顕微鏡観察に興味を持たれる方が増えており、観察会にも顕微鏡持参で参加される姿も見かけるようになりました。また顕微鏡観察のホームページを公開されている人があり、これに刺激を受けて新たに顕微鏡を購入された方もあるようです。

中央植物園友の会のきのこ部会でも、この不思議なきのこの世界を部会員の方に知ってもらうために、顕微鏡入門講座を計画しました。今年度は初めてということもあって、顕微鏡に慣れていただくことを第一に3回連続の講座を開催しましたが、やがてはこの講習を受けた方の中から、顕微鏡で見るきのこの世界に興味を持たれ、自分で採ったきのこを顕微鏡で覗きたいという人が出て来ればいいなあと考えています。



図2．光学顕微鏡で観察したシイタケ *Lentinula edodes* (Berk.) Peglerの菌糸。矢印はクランプ構造を示す

その5 高山植物の宝庫 シャングリラ 香格里拉(下)

主任研究員 神戸敏成

(前号から続く) まさに「植物の宝庫」といった感じでした。このあたりで見ることができるといふ憧れの「ヒマラヤの青いケシ」に出会うことができなかつたことが心残りでしたが、ホテルへの帰路につくことにしました。

しばらくすると、道路の法面に青いものがありました。なんと「ヒマラヤの青いケシ」のメコノプシス・ホリデュラでした(写真1)。うれしさのあまり法面を駆け上ったのはよかったです。そこは標高3200mを越える場所。これまでの学習効果も無く、息切れしてしまいましたが、ほんとうに美しい青でした。

この調査を最後に中国雲南省での3ヶ月間の調査・研究も終了し、研究所へ戻った私は調査・研究の整理と帰国の準備にとりかかりました。そして、3ヶ月間剃らなかつたヒゲも伸び、昆明植物研究所を離れる日が来ました(写真2)。この経験を今後の富山県中央植物園の研究活動や導入植物の栽培に活かしていきたいと思ひます。

おわり



写真1. 憧れの「ヒマラヤの青いケシ」メコノプシス・ホリデュラ



写真2. 昆明植物研究所を離れる日の筆者

これからが見ごろの植物



オオハマボウ

7～9月 熱帯雨林植物室



熱帯スイレン(夜咲き性)

8月15・16日の夜間開園でご覧いただけます。熱帯雨林植物室

中央植物園前にバス停が新設

富山地铁バス「萩の島循環線」に「中央植物園前」バス停が新設され、植物園のご利用が便利になりました。

時刻表

富山駅前発(中央植物園前方面)

8:45 10:20 14:20 16:20

中央植物園前発(富山駅前方面)

9:37 11:12 15:12 17:12

(富山駅前～中央植物園前の所要時間は21分)

運賃 370円

(富山駅前～中央植物園前)

上記のほかにも、従来の「中央植物園口」バス停(植物園まで徒歩8分)に停車するバスが4便あります。

お知らせ

イベント案内

サンライトホール展示 (入園料が必要)

「私の植物写真展」

6月27日(金)～7月23日(水)

特別展「植物と紋章展」

7月25日(金)～8月20日(水)

夜間開園

「夜の温室植物」

日時: 8月15日(金)・16日(土) 19:00～21:00

場所: 展示温室

入園料: 大人300円 小・中学生150円

20名以上の団体は2割引

16日は児童・生徒無料

講演会・講習会

親子植物観察記録会「デジカメで花を撮ろう」

日時: 7月27日(日) 10:00～15:30

場所: 園内、富山県情報工房

共催: 富山県情報工房

参加費: 無料

定員: 親子16組 **要申込** 申込については情報工房までお問合せください(電話 076-444-7887)。

「小学生植物ふしぎ教室」

日時: 7月28日(月)～30日(水) 10:00～16:00

場所: 実習室、県民公園頼成の森

対象: 小学校4～6年生

参加費: 無料

定員: 24名 **要申込**

第11回TOYAMA植物フォーラム

「よみがえる幻の園芸植物センノウ」

日時: 8月3日(日) 13:00～16:00

場所: 高志会館(富山駅から徒歩7分)

講師: 村田 源(元京都大学講師)

芳沢勝弘(花園大学教授)

神戸敏成(富山県中央植物園主任研究員)

参加費: 無料

化石公開記念講演会「恐竜はどんな植物を見ていたか」

日時: 8月24日(日) 13:00～15:00

場所: 研修室

講師: 寺田和雄(福井県立恐竜博物館研究員)

参加費: 無料

要申込 このマークの講座・講習会は事前の申込が必要です。申込は開催の1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

植物学講座「花粉学入門」

日時: 9月7日(日) 10:00～16:00

場所: 実習室、研修室

講師: 佐橋紀男(東邦大学薬学部教授)

参加費: 無料

定員: 24名 **要申込**

県民カレッジ連携講座「第21回植物画講習会」

日時: 9月20日(土)・21日(日) 10:00～16:00

場所: 研修室

講師: 豊田路子・岡田宗男

(フェアリーリング会会員)

参加費: 500円(画材料)

定員: 50名 **要申込**

「どんぐりで遊ぼう」

日時: 10月12日(日) 13:00～16:00

場所: 研修室・園内

参加費: 無料

定員: 40名 **要申込**

月例行事

日曜植物案内

8月3日(日)、9月7日(日)、10月5日(日)

時間: 11:00～12:00

集合場所: サンライトホール

参加費: 入園料が必要(児童・生徒は無料)

植物園オリエンタリング

7月13日(日)、8月17日(日)、9月21日(日)

時間: 10:30～12:30

場所: サンライトホール

参加費: 入園料が必要(児童・生徒は無料)

臨時開園のご案内

お盆期間中の休園日(木曜日)を次の通り臨時開園します。

臨時開園日 平成15年8月14日(木)

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)

11月～1月は9:00～16:30(入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 団体料金(20名以上)

大人(高校生以上) 600円 480円

小人(小・中学生) 300円 240円

土・日・祝日は児童・生徒無料

富山県中央植物園だより 2003.7・8・9月号 平成15年7月1日発行(年4回発行)

編集・発行 富山県中央植物園 〒939-2713 富山県婦負郡婦中町上轡田42 Tel. 076-466-4187

印刷 富山スガキ株式会社